

飛燕の修復について

日本航空協会 航空遺産継承基金事務局

はじめに

本誌 No.111（2015 年夏季号）でお伝えした本協会所有の陸軍三式戦闘機「飛燕」二型 6117 号機（以下、「6117 号機」と表記）の川崎重工業様による修復がこの度、終了いたしました（写真 1）。本稿ではその概要と 6117 号機の今後の予定などについてご報告します。

修復の方針

飛燕 6117 号機は、現存する「飛燕」の中でもっとも多くのオリジナルを残している貴重な機体です。この機体は、機体固有の歴史を持つ唯一無二のものとしての価値と「飛燕」と名付けられた戦

闘機の一サンプルとしての価値を併せ持っています。

今回の修復は、6117 号機が戦闘機としての役目を終えた時点を基準として行われました。それは、その後にこの機体が経験した様々なことの情報より、戦闘機として戦後を迎えるまでの情報が我々にとって重要であると判断したためです。従いまして、戦後付加された部品や塗装を取り除くこととしました。取り除くことによって、今までは見ることのできなかった多くのものを発見することができました。例えば、機体各部にある製造会社を示す刻印や、国籍マーク、製造番号および注意書きの痕跡などです（写真 2～6）。これらによって、「飛燕」という抽象的な戦闘機群の一



写真 1 ポートターミナルでの公開最終日 2016 年 11 月 3 日の様子

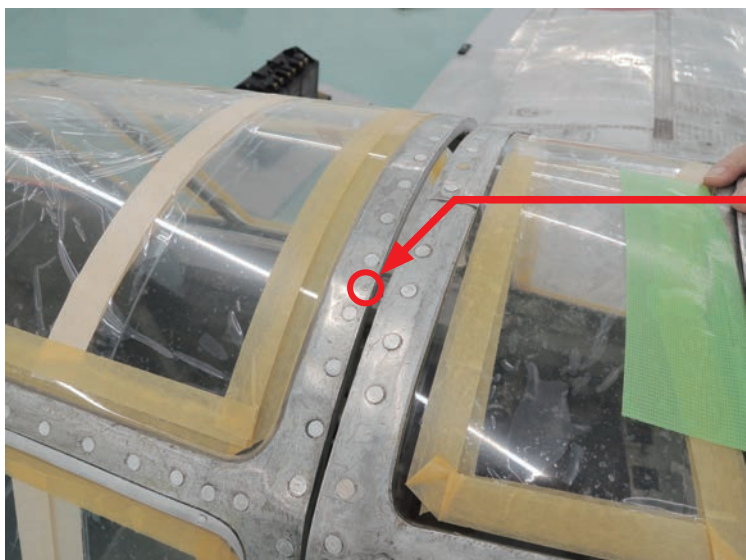


写真2

機体に施された刻印の一例。第二風防のフレームにある川崎航空機の刻印（「川」の字を図案化したもので通称リバーマーク）



写真3

オリジナルの塗装の痕跡の一例。過給器のインテイク下側に残る製造番号「6117」のもの



写真4

オリジナルの塗装の痕跡の一例。左側水平尾翼と胴体の間のフィレットに残る製造番号「6117」のもの



写真5 オリジナルの塗装の痕跡の一例。主翼下面の点検パネルに残る「懸吊架点検孔蓋」というステンシルのもの



写真6 右主翼下面の国籍マークの痕跡。ただし、国籍マークは戦後に米軍によって塗装されたこともあるので、いつのものは今後の研究が待たれます。なお、この写真の撮影時には、エルロンおよびその前方の主翼の木製部分には知覧特攻平和会館で展示される際に塗装された国籍マークが残っていましたが、現在は木製部分は塗装が剥がされ、エルロンは銀塗装が施されています

機という以上に、6117号機という固有の機体が経てきた歴史を生々しく感じていただけたと思います。

6117号機を文化財として捉えた場合には、オリジナルを次世代により多く伝えることを第一の価値とします。文化財とは、われわれ人類の歴史を実証する証拠そのものですから、改変したり付け加えたり取り除いたりすることは、歴史そのものを歪めることになってしまいます。その立場からは、オリジナルに負担をかけるあらゆる行為を慎まねばなりません。たとえば、新たな部品を加えたり、塗装を行ったりすることにあたります。厳密な意味でこれらの行為は、オリジナルに負担をかけ結果的にその寿命を縮めることになるからです。ですので、文化財の保存では、物自体に手を加えるのではなく、周辺環境を整えることでその保存を行うことを第一としています。錆びそうな部品があれば塗装するのではなく、錆びないような環境に保管するというようなことです。所沢航空発祥記念館に保存されている九一式戦闘機のような方法です。

しかしながら、未来の人々にできるだけ多くのものを伝える一方で現在の人々に対しての利活用も文化財として重要な役割です。一般の人々にわかりやすくその価値を伝えるために、負担の少ない手法で表現を追加することも許される場合があります。それは、大きく欠損している部分にレプ

リカ部品を補い当時のイメージを想像しやすくするような作業です。このような場合、オリジナルと新たに付加したものは、容易に峻別できるようにしなければならないのは、言うまでもありません。

修復の枠組み

修復は、川崎重工業様に費用を全面的にご支援いただいて実施されました。実施する作業については、過去に行われた修復が必ずしも6117号機の文化財としての価値を守るものではなかったことに鑑み、まず川崎重工業様に個々の部位などの修復内容についてご提案いただき、それを当協会でご検討させていただいたうえで、作業を進めていただきました。

修復内容の検討に当たっては、石本秀雄様、井上哲也様、岡部英一様、金子俊雄様、片淵須直様、河守鎮夫様、小山澄人様、佐伯邦昭様、坂井正一郎様、佐藤邦彦様、杉山弘一様、鈴木充典様、鈴木幸雄様、田中祥一様、田中昭重様、寺島一彦様、中村泰三様、福澤計人様、宮崎賢治様、山田圭一様、Joe Picarella 様、Ronnie Olsthoorn 様、機関・法人では、かかみがはら航空宇宙科学博物館、(株)立飛ホールディングス、東京文化財研究所、所沢航空発祥記念館、Fleet Air Arm Museum (イギリス海軍航空隊博物館)の皆様(以上、順不同五十音順)にご提供いただいた資料とご助言を



写真7 知覧特攻平和会館からの搬出される主翼



写真8 川崎重工業岐阜工場に搬入されて間もない6117号機

参考にさせていただき、航空遺産継承基金専門委員（鈴木一義様、中山俊介様、藤田俊夫様、藤原洋様、柳沢光二様、横山晋太郎様）に諮問しました。

修復プロジェクトは2015年8月24日に「飛燕の修復等に関する覚書」および「飛燕修復の指針」

を川崎重工業様と取り交わすことで、本格的に動き出しました。知覧特攻平和会館からの搬出は同月31日から9月3日にかけて行われ（写真7）、岐阜県各務原市の川崎重工業岐阜工場に9月8日に搬入されて、修復作業が始まりました（写真8）。

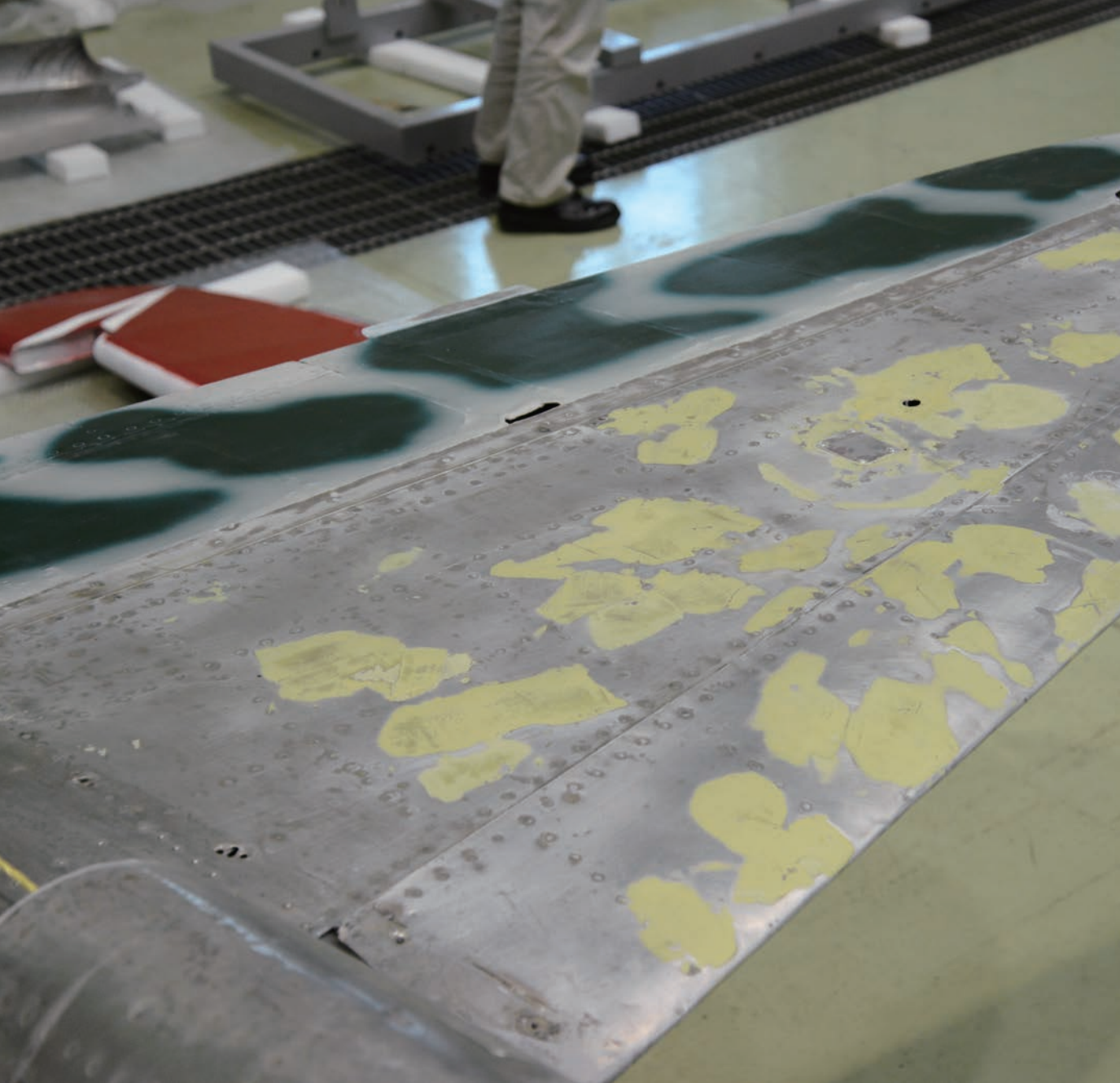


写真9 修復中の6117号機の尾部。水平尾翼の黄緑色の斑模様は、塗装剥離後に見えてきた自動車用パテです。昇降舵に張られたは羽布はオリジナルのものではなく、この後、銀塗装が施されました

修復の内容および箇所

川崎重工業様には社内でチームを立ち上げて作業に当たっていただきました。川崎重工業様に実施していただいた修復作業は大別すると、以下の2つになりました。

- 1945年以降に加えられたものの除去（迷彩塗装の剥離、機体表面の凹みに塗られたパテの除去、機関砲のダミーなどの取外し、など）

（写真9、10）

- 1945年以降に失われた部品のうち、可能な範囲での精度の高い複製部品の製作と組み込み（機首上面の発動機覆い、操縦席計器板、エンジン過給器などの複製部品作成）（写真11～13）

複製された部品には、今回の修復で組み込まれた部品であることを示す記号を刻印していただいています。



写真10 操縦席から取り外された機関砲のダミー



写真11 今回の修復まで取り付けられていた機首上面の発動機覆いの複製品



写真12 川崎重工様によって新たに製作された機首上面の発動機覆いの複製品。写真11のパネルは本来は前後2枚のパネルで、これはその前方部分。塗装を再現する黒いラッピングシールが貼られた状態ですが、この後に剥がされました

当協会では国籍マークや防眩塗装などを再び塗装することは、6117号機を文化財として扱うのであれば、避けるべき処置であるため、行わないことといたしました。なお、操縦席などの機体内部および主翼の脚収納部は、オリジナルの塗装の上に戦後、ジクロロメイトイエローやライトブルーがオーバープレーされていることが調査で判明していたため、塗装の剥離は実施しませんでした（写

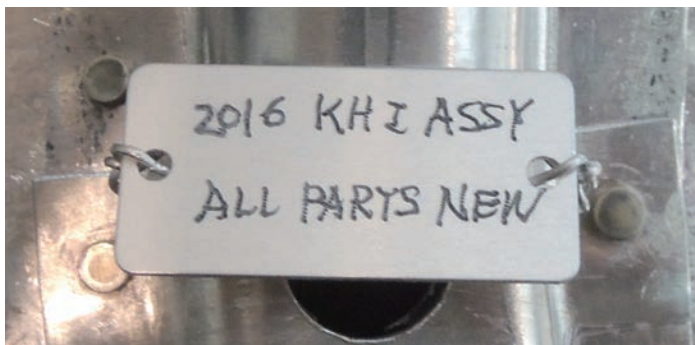


写真13 レプリカ部品であることを明示する刻印されたプレートの一例。写真12のパネルの内側に取り付けられています



写真 14 機体内部は塗装剥離を行いませんでした。写真は操縦席から左後方を見たところ

真 14)。

神戸での展示と今後の予定

修復の終わった 6117 号機は、いったん川崎重工岐阜工場では組み立てられた後、再び分解されて 10 月 9 日に神戸ポートターミナルに向けて搬出、翌日から再度組み立てられ(写真 15、16)、10 月 15 日から「川崎重工創立 120 周年記念展 ―世界最速にかけた誇り高き情熱―」で一般公開されました(写真 1)。同展には 11 月 3 日までの会期中に 4 万人を超える見学者が訪れたとのこと。なお、この展示においては川崎重工様のご希望により、日の丸および機首の防眩塗装、主翼前縁の黄帯が一時的にラッピングシールで再現されていました。

11 月 4 日から再び 6117 号機は分解され、11 月 6 日に、かかみがはら航空宇宙科学博物館に向けて搬出、翌日に同館に搬入されました。同館は 2016 年 9 月 26 日からリニューアル中ですが、

6117 号機は収蔵庫において分解された状態で展示されています(写真 17)。11 月 19 日には、そのオープニングセレモニーが開催され、古田肇岐阜県知事、浅野健司各務原市長、佐藤信之日本航空協会専務理事を含む 9 人によりテープカットも行われました(写真 18)。リニューアルオープンは 2018 年 3 月下旬に予定されており、その際には 6117 号機は再び組み立てられて展示される予定です。

今回の修復は、約 1 年という限られた時間の中で、可能な範囲での修復を川崎重工様に実施していただきました。川崎重工様に深く感謝いたしますとともに、修復に当たってご助力いただいた皆様に心より御礼申し上げます。

当協会では、後世に伝えるべく 6117 号機の修復の記録を編集発行する予定です。発行時期等は決まり次第、当協会のホームページ等でご案内いたします。今後とも皆様のご支援とご理解のほどをお願い申し上げます。



写真 15 2016 年 10 月 10 日の神戸ポートターミナルへの搬入作業。
主翼の全幅は 12 m あります



写真 16 2016 年 10 月 10 日神戸ポートターミナルで組み立て中
の 6117 号機

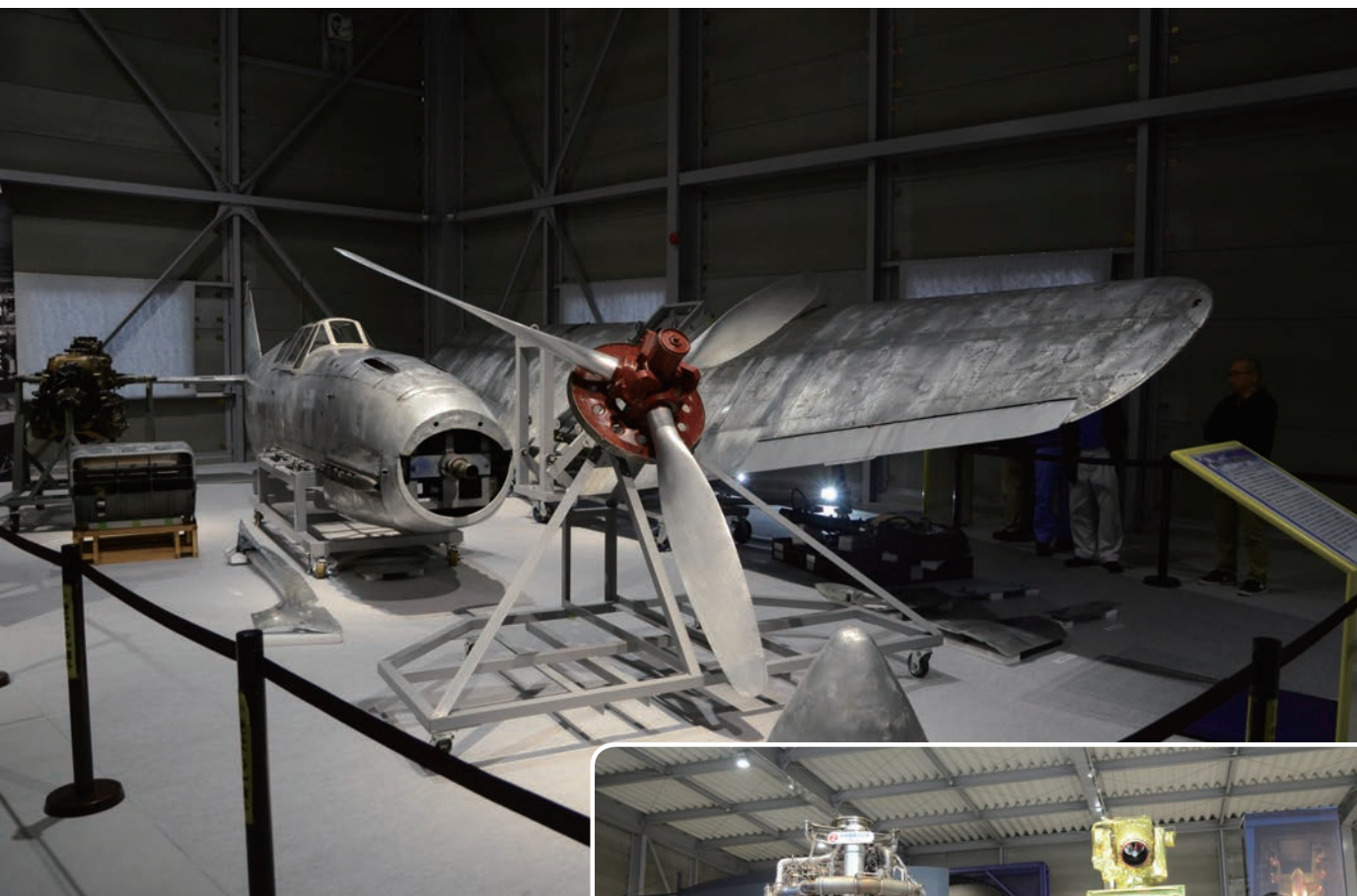


写真 17 収蔵庫展示された 6117 号機の胴体

写真 18
2016 年 11 月 19 日にかかみがはら航空宇宙科学博物館で
行われた収蔵庫展示のオープニングセレモニーの様子

